

日時 2009年5月21日(木)14時30分至16時40分

場所 新宿文化センター 地下2階 リハーサル室

(東京都新宿区新宿6-14-1)

出席者

委員:高階(会長) 垣内(副会長) 岡田、小口、樽松、大和、舟橋、沼田、近藤、園江、松本、酒井各委員 (小山委員については欠席)

専門部会員:(小川専門部会員については欠席)

事務局等:山田文化観光国際課長、磯野文化観光国際係長、原文化観光国際主査、宮本主任主事、北見主任主事、小泉主事、原(健)主事

資料

【懇談会資料】

- ・ 資料1:新宿区文化芸術の振興に関する懇談会(第5回)議事(概要)
- ・ 資料1:新宿区文化芸術の振興に関する懇談会(第5回)議事(要旨)
- ・ 資料2-1:「文化芸術振興の取組みの方向性(「子どもの生きる力を育む」)の取りまとめ
- ・ 資料2-2:「文化芸術振興の取組みの方向性(「子どもの生きる力を育む」)の取りまとめ
- ・ 資料3:文化芸術振興の取組みの方向性について  
(「新宿からの文化を創造する・発信する」「新宿のまちに人を惹きつける」「民(みんな)の力で作られたまちを支える」「新宿力のふたをあける(顕在化する)」「多様な人と人をつなげる」)
- ・ 資料4:文化芸術振興の取組みの方向性について  
(「新宿からの文化を創造する・発信する」「新宿のまちに人を惹きつける」「民(みんな)の力で作られたまちを支える」「新宿力のふたをあける(顕在化する)」「多様な人と人をつなげる」)

【参考資料】

- ・ 参考資料:『人が行き交い 感性を育むまち新宿』文化創造産業育成に関する提言(中間報告) 新宿区文化創造産業育成委員会
- ・ 参考資料:新宿区文化芸術基本条例リーフレット投書はがき集計

開会

1. 高階会長が懇談会の会を宣言し、開会した。
2. 本日の懇談会の主なテーマが、  
前回のテーマ「文化芸術振興の取組みの方向性『子どもの生きる力を育む』」のまとめについて確認し、構成員全員で認識を共有すること。  
今回のテーマ「文化芸術振興の取組みの方向性『新宿からの文化を創造する・発信する』『新宿のまちに人を惹きつける』『民(みんな)の力で作られたまちを支える』『新宿力のふたをあける(顕在化する)』『多様な人と人をつなげる』」について、私たちに何ができるか、今後どのような取組みを進めていくことが大事かということについて、意見の交換と集約を行うこと。であることを会長発言により確認した。

議事

1. 第4回会議内容の確認等について(資料1より)
  - (1) 資料1により、前回の議事概要について、事務局から説明を行った。発言内容について、訂正のある場合は6月12日(金)までに事務局へ連絡することを確認した。ホームページで公表する書式としては資料1の要旨版を用いることを確認した。
  - (2) 高階会長の下命を受け、5月18日(月)に専門部会を開催した。第5回懇談会における会長、各委員の発言内容を整理確認し(資料2-1、2-2) 条例作成に向け、懇談会の検討課題等を踏まえた意見交換・論点整理を行った。

2. 「文化芸術振興の取組みの方向性：「子どもの生きる力を育む」について（資料2 - 1、2 - 2より）

(1) 説明・報告

「子どもの生きる力を育む」をテーマに、今後、どのような取組みを進めていくことが大事かについて、まとめを確認し、懇談会としての認識を共有し、まとめたい。

資料2 - 1、2 - 2により、説明を行った。

専門部会長から次の3点についての補足説明を行った。

ア 第5回懇談会の内容を踏まえ、「子どもの生きる力を育む」についての考え方を整理するために専門部会を開催した。会長が総括された「学校・地域・区民が連携した文化芸術教育の重要性」「区内の文化芸術資源の活用を図るための文化コーディネーターの育成」「適切な情報提供のためのシステムづくり」を念頭に置いて、まとめるようにした。

イ 懇談会での検討内容を最終目標の「報告書」と「条例案文」という形で、イメージ化した。

ウ 本日の資料について。

- ・ 資料の形式については、意見を集約してイメージ化したものであり、確定したものではない。
- ・ 報告書・条例のイメージについては、各回の議論を十分踏まえて、随時、論点補強と加除修正を行っていく。
- ・ 持ち帰って検討していただき、意見があれば次回懇談会でいただきたい。

事務局から、次の2点についての補足説明を行った。

- ・ 資料2 - 1については「長期的な文化芸術の振興。一過性のものではなく、次世代育成の視点からの取組みが必要」「本物を見ること、実際の場所に行ってみること、檜舞台に立つことの素晴しさ。これを生きる力や学力につなげる工夫が必要」という二本柱を中心に、議論の中から8つのポイントを抜き出した。
- ・ 資料2 - 2については、前回の議論を落とし込むと同時に、会長発言等をまとめ「子どもが人間として育っていく上で、文化芸術に期待する役割は大きいわけです。文化芸術は一過性のものでない。子どもたちを次世代の文化芸術の担い手として育むことが重要です。日常生活の中から時々突拍子のないことが生まれる。それが創造性につながる。だから、芸術だけの問題ではなく人間の生活すべてに関わるのです。文化芸術は創造性を養っていくものだと思います」という点について記載した。

(2) 意見交換・まとめ

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・ 第5回の議論における論点を、より整理した形のまとめとして、よくまとめられている。</li><li>・ 「子どもの生きる力を育む」については、資料2 - 1、2 - 2にまとめた内容を持ち帰り、確認していただく。</li></ul> |
|---|

3. 文化芸術振興の取組みの方向性「新宿からの文化を創造する・発信する」「新宿のまちに人を惹きつける」「民(みんな)の力で作られたまちを支える」「新宿力のふたをあける(顕在化する)」「多様な人と人をつなげる」について（資料3、4より）

(1) 説明・報告

専門部会長及び事務局より、文化芸術振興の取組みの方向性「新宿からの文化を創造する・発信する」「新宿のまちに人を惹きつける」「民(みんな)の力で作られたまちを支える」「新宿力のふたをあける(顕在化する)」「多様な人と人をつなげる」について、本日、取りまとめていく上で、その基礎資料として、次の資料の説明を行った。

ア 文化芸術振興の取組みの方向性（「新宿からの文化を創造する・発信する」「新宿のまちに人を惹きつける」「民(みんな)の力で作られたまちを支える」「新宿力のふたをあける(顕在化する)」「多様な人と人をつなげる」）について（資料3）

イ 文化芸術振興の取組みの方向性（「新宿からの文化を創造する・発信する」「新宿のまちに人を惹きつける」「民(みんな)の力で作られたまちを支える」「新宿力のふたをあける(顕在化する)」「多様な人と人をつなげる」）について（資料4）

- ・ 懇談会の行程とテーマによると、今回以降で未検討のテーマは二つ「文化芸術の拠点としての文化センター」と「区民・団体・企業等々、各主体に期待する役割」となっている。以上のテーマは各1回ずつ懇談会で議論を要する。また、文化芸術振興の取組みの方向性について、残された5つのテーマは相互に密接な関連性がある。そのため、量は多いがあえて一括して議論していただくこととした。
- ・ これらのテーマは、これまでの懇談会でも様々な意見が示されている。まちの記憶という過去に対するアプローチ、子どもたちという未来に対するアプローチ、そして今回の5つのテーマは現在に対するアプローチということになる。

資料3、資料4について議論のたたき台である旨、説明を行った。

#### ア 概要（項目）の読み上げ（資料3、4）

- ・ 5つのテーマに関してこれまでの懇談会で出た主な意見について
- ・ 文化芸術の担い手たちと文化芸術施設の概況等
- ・ 具体的施策の概説
- ・ 基本構想や総合計画の中で提示されている施策や課題
- ・ 今後の具体的施策のイメージ

#### イ 補足事項

- ・ 新宿文化・国際交流財団と新宿区生涯学習財団の統合について
- ・ 文化創造産業育成委員会の中間報告について
- ・ 新宿区文化芸術基本条例リーフレット投書はがき集計について

### （2）意見交換（発言のポイント）

- ・ 今回の5つのテーマは非常に密接に絡んでいて、新宿の文化をこれからどうしようということに収斂していくと、中心となるのはやはり人である。文化をつくり、享受する、そして、また新たな文化を創っていく。新宿としての文化を創り、発信していくとき、どのように人と人をつなげ、創造力を引き出していくということが重要な課題である。
- ・ これまでも官民ともにさまざまな取組みが行われてきたが、バラバラに実施されてきて、まとまった力としては不十分だった。これまでの取組みを、一般の区民の方や新宿の高いディスプレイ効果にどうリンクさせていくかが大切である。
- ・ さまざまな活動を顕在化し、はっきりと見えるかたちにしていくことがとても大切である。それぞれの中にある創造力をはっきりと示しながら、お互いの関係プレー、そしてネットワークを形成していくことが必要である。
- ・ 新宿には、さまざまな分野の文化芸術団体が数多く存在するが、その大半がこれまで区の支援を受けずに独自に活動してきた。その全体像が把握されていない現状がある。
- ・ 例えば、文化芸術地図を作成すれば、その過程でネットワーク化が進み、コーディネートもしやすくなるのではないか。
- ・ 当事者が積極的に参与するような方向性を打ち出すことが必要である。
- ・ 情報は、発信する側とニーズがある人とのマッチングを考えていくことが重要なのではないか。
- ・ 自分で探しにいくだけでなく、自分の関心がある分野について、事前登録しておき、文化芸術に関する情報が配信されるようなシステムも必要なのではないか。
- ・ 文化芸術に関わる企業が配信する情報については、インターネットや携帯電話等、様々な手段を活用しながら情報発信サービスは行われつつある。ビジネスモデルを描くことはできるが、今回のテーマに関連して、そこに至るまでに動機づけ、プロモーションが難しいところ。

- ・広報しんじゅくの「区民のひろば」は掲載機会も限られ、スペースも小さい。民間紙も同様。財団広報紙は掲載が有料である。文化芸術団体が努力（割引や招待など）しようとしても、広報の場が少ない状況がある。
- ・広報しんじゅくの「区民のひろば」は近年縮小傾向にあるのでは。また、全体として情報を羅列するだけで、読み物として魅力が乏しくなっている。文化資源や文化芸術に関する取材などとしてはどうか。
- ・広報しんじゅくで取り扱う情報が区政全体で増えている。また、「区民のひろば」も多くの団体が申し込まれ、人気が高い。活動を知ってもらう、リピーター獲得のためには、ダイレクトメール（DM）やメーリングリストなどにより、きめ細かく案内をする必要があるのではないか。
- ・芸術活動は固定客がいないとやっていけない。DMなどにより事業努力で確保する。あと残席が出た場合、プラスアルファとして新しい客を入れていく。固定客プラスアルファをどう掘り起こしていくか。その部分に何か仕組みを作れるかどうか。
- ・新宿で何かやったら良い効果があると、文化芸術団体が感じるような文化的プレゼンスを高めていく必要がある。
- ・文化芸術に関する情報の発信については、新宿のまちに訪れる人だけではなく、区民も対象にしながら、これまで行政が行ってこなかった商業的な情報の取り扱いも含めて、発信力を強化していくことが必要である。
- ・駅や大学、区の施設などに、区の文化芸術情報コーナーのようなものを設置してはどうか。
- ・向こう1週間とか、1ヶ月とか、区内の文化芸術情報を手軽に取れるような便利なシステムが定着すれば、文化芸術団体も有料でも情報を掲載する意味が出てくるのではないかと。
- ・マーケットが成り立っている文化芸術活動の情報は、既に民間がやっており、愛好者は熟知している。基礎自治体としてどこまでやるのが良いか。お祭りや伝統芸能などはあまりやられていない分野だ。
- ・文化芸術の分野はセグメント化が進んでいる。自分の興味がある分野以外には顔を向けない場合が多い。愛好者同士のネットワークの中で、口コミにより広がるケースが多い。また、ジェネレーションにより情報のメディアは異なる。セグメントや年齢層に合う効果的な媒体を考えていくことが大切である。
- ・区民の文化芸術団体は、登録団体として会場の使用料等が減免になることで、活動が続けられる。
- ・実演芸術は、長期間の稽古を経て本番を迎えるため、稽古場の確保は極めて重要。東京・新宿の稽古場事情はかなり逼迫している。
- ・学校の施設開放で、会議や練習・稽古などに活用してもらっている。しかし施設の制約などから全校で同じように行われているわけではない。
- ・生涯学習館、地域センター、学校開放など、創造や発表の場を一元管理し、文化芸術団体が利用しやすいシステムを構築することが必要である。
- ・芸術天国や文化ロードなど、文化芸術団体を巻き込んだ季節のイベントで、繰り返し発信をしていくことが、新宿のまち全体で文化を発信していくことになるし、連鎖的な活動を促すことにもなる。
- ・箱（施設）の中でやっていると、外からもわかるような工夫が必要だと思う。通りがかりでも気軽に入れるようなかたちにしていことが大切である。
- ・シニアや障害者・介助者の割引制度が検討できないか。
- ・文化芸術関係者の顕彰制度が検討できないか。

#### 4. まとめ

(1) 「子どもの生きる力を育む」について

このテーマに関するまとめとして資料で整理した方向性について、基本的な了解を得たが、資料については持ち帰って確認していただくこととした。

(2) 「新宿からの文化を創造する・発信する」「新宿のまちに人を惹きつける」「民(みんな)の力で作られたまちを支える」「新宿力のふたをあける(顕在化する)」「多様な人と人をつなげる」について

懇談会資料を基本に置きながら、区内の文化芸術活動を取り巻く現状や課題を確認し、「さまざまな活動の顕在化と互いの創造力を発揮しながらの連携プレー、そしてネットワークの形成」、「年代や対象を考慮した手軽で便利な情報提供システムの構築」、「創造や発表の場の提供」などを中心に議論を行った。触れられなかったテーマについては、今後の懇談会で機会があれば議論することとした。

(3) 今日の話をもとに専門部会で取りまとめをお願いしたい。

#### 5. 次回日程について事務局より、下記のとおり日程の確認を行った。

第7回懇談会開催は、6月26日(金) 時間・会場は未定。決定次第通知する。

#### 閉会

高階会長の挨拶をもって、16時40分閉会した。

#### その他

閉会后、新宿文化センター内の施設見学を行った。